

日本学術会議第二部会（第24期・第4回）議事要旨

日 時：平成30年10月3日 15:00-16:30、10月4日 10:00-12:00

会 場：日本学術会議6-A（1）（2）

出席者：（敬称略）

（50名）

秋葉、東、天谷、池田、石塚、磯部、市川、今井、遠藤、大杉、岡部、小川、甲斐、片田、神尾、神谷、神奈木、菊池、経塚、熊谷、小松、佐治、澁澤、城石、杉本、高井、高木、多久和、武内、丹沢、名越、南條、仁科、西村いくこ、西村理行、古谷、寶金、松本、眞鍋、水口、三村、宮崎、宮地、村川、望月、森、安村、山極、山脇、吉岡
各会員

（事務局：岩村、三神、勝間田）

開会：事務局が定足数を確認し、開会した。

議事概要：

1. 各分野別委員会からの報告等について（報告者）（資料1）

基礎生物学委員会（城石）、統合生物学委員会（代理：城石）、農学委員会（大杉）、食料科学委員会（澁澤）、基礎医学委員会（甲斐）、臨床医学委員会（神尾）、健康・生活科学委員会（片田）、歯学委員会（丹沢）、薬学委員会（望月）、環境学委員会（武内）の委員会からこれまでの活動について報告があった。多くの分科会が立ち上がり、すでにいくつかのシンポジウムが開催された。

また、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会（熊谷）は7月に設置され、近日中に第一回分科会が開催予定。

2. 各機能別委員会、分野別委員会からの報告（報告者）（資料1,2）

○科学者委員会（武田）

男女共同参画分科会（名越）、学術体制分科会（武田）、学協会連携分科会（望月）、研究計画・研究資金検討分科会（武田）、学術と教育分科会（平井）、ゲノム編集技術に関する分科会（武田）からこれまでの活動について報告があった。

○科学と社会委員会（平井）

課題別審議等査読分科会（平井）、市民と科学の対話分科会（平井）、メディア懇談分科会（山極）、政府・産業界連携分科会（山極）からこれまでの活動について報告があった。特に山際会長より、今季はマスメディア、産業界との対話に力を入れている旨の発言があった。

○国際委員会（武内）

国際会議主催等検討分科会、アジア学術会議等分科会、日本・カナダ女性研究者交流分科会、Gサイエンス学術会議分科会、I S C等分科会、国際対応戦略立案分科会、フューチャー・アースの国際的展開対応分科会、科学者に関する国際人権対応分科会、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2018 等分科会（説明者は武内）からこれまでの活動について報告があった。

特に国際学術団体の加盟、会費支出に関する見直しが近いうちに実施される（役員等の貢献や国内への波及効果などの観点から）。

3. 第 24 期課題別委員会（分野横断的な課題候補）について（資料 1, 3）

以下の委員からの報告があった。

○防災減災学術連携委員会（武内）

西日本豪雨対策会議を開催。首都直下型地震に備える会議を開催予定。

○フューチャー・アース（FE）の推進と連携に関する委員会（持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会、フューチャー・アース国内連携分科会）（武内）

FE 体制の見直しが行われている。それにコミットするための我が国の体制を議論
ISC 福岡フォーラムで FE の session などの活動

○自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会（澁澤）

○人口縮小社会における問題解決のための検討委員会（経塚）（資料 3）

○認知障害に関する包括的検討委員会（寶金）（資料 4 - 1、4 - 2）

過去の提言のフォロー、オレンジプランへの対応（厚労省）

経度認知症（MCI）を中心に 5-10 年先を見据えた議論

目線を下げた議論 家族、介護者の立場で。

4. その他

(1) 審議関係予算の逼迫への対応（参考資料）

山極会長より、このままだと 11 月から 12 月で予算が不足する可能性がある旨の説明と対応の依頼があった。分科会のメール審議の簡便化に関しては早急に幹事会で結論を出す。

(2) 23 期放射線防護・リスクマネジメント分科会からの報告に対する質問状への対応についての報告（参考資料）

分科会からの説明（安村、神谷）および幹事会の対応（石川）の報告があった。

原子力市民委員会からの質問状(2018 年 3 月)および高木学校からの質問状(2018 年 3 月、9 月、質問および公開討論会の)に対して、分科会からは専門的な質問に対する回答および幹事会としての判断をそれぞれの責任を明確した形で回答した。なお現時点では公開討論会は行わない。

一方、今回の意見や部会での議論を活かして、今季中に分科会でまとめる予定の

提言の発出の際には多様な意見に配慮する。

(3) マスタープラン (MP) 2020 の補足説明 (武田)

11月に基本方針を発表。来年2月くらいから公募開始。

MP2017からの大きな変更点は以下の2つ。

- ・MP2017で重点領域に採択された課題は一定の条件を満たせばキャリアオーバーが可能。ただし最大3期9年まで。

- ・MP2020は、文部科学省のロードマップに採択されることだけを目指すのではなく、様々な学術資金団体・機関への課題提案にも用いる(学術会議としても後押しする)。

以上